

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会 | Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会」 Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

<熊の冬籠り穴> 第50号に続く :

<穴に籠る期間>

穴に入る時期は、北海道では早い個体で11月20日過ぎ、遅い個体でも冬至過ぎには穴に籠る。そして、穴出の時季は早い個体で3月中旬、多くは4月に穴出する。穴から出るのが遅いのは、新生子を伴った母熊だが、この母子も5月初めには穴出する。多くの事象に例外的例があるもので、極めて稀に、遅く穴入りしたり、早く穴出する個体もある。冬籠り期間の長短はあるが、冬籠りを全くしない個体はまずいない。

<同じ穴に籠るのは母子だけである>

同じ穴に籠るのは母子だけである。母熊が子を自立させる時期は5月から8月の間である。子が1頭の場合は子が満1歳過ぎた5月から8月の間に自立させる。それ故、母子が2度一緒に越冬穴に入り過ごす。子が複数(2、3頭)の場合は子が満2歳過ぎた5月から8月の間に自立させる。この場合は母子が3度一緒に越冬穴に入り過ごす。ただし、鮭鱒を多く採食した場合には、栄養が豊富で成長が早いので、子が複数の場合でも、子が満1歳過

ぎた5月から8月の間に自立させる。

<穴に籠っている熊の構成>

穴熊の構成には4つある。①単独熊の場合、②新生子(1~3頭)を伴った母子(子は1~2月に生まれる)、③満1歳子(1~3頭)を伴った母子、④満2歳子(2~3頭)を伴った母子、の4つである。

[アイヌが考えた穴熊猟]

<熊穴猟の効用>

熊が穴に入っていれば、ほぼ確実に熊が捕獲できる。熊が穴の中に居るので捕りやすい。冬毛の毛皮が取れる。良い胆嚢(熊胆)が取れる。良質の脂肪(臓器面や臓器間や体膜に白色の脂肪がある)が取れる。比較的軟らかい良質の肉(あまり筋肉を動かして居ないために)が取れる。良質な熊掌(脂肪を含み肉も軟らかい)が取れる。母子が捕獲し得る(計2~4頭)。特に、飼育用の新生子が手に入る。捕り方は穴口から、棒で穴中を突いて、出て来たところを毒矢や槍で撃ち獲る。

<新生子を得る事の利点>

熊は1月から2月に出産するから、この時期または3月から4月ないし5月上旬に穴熊猟を行えば、新生子が得られる事がある。新生子はこの時期まだ幼獣で単独では生きて行けない。8ヶ月令を過ぎないと、単独では生きて行けないであろう。であるから、春の幼獣を生かすとすれば必然的に人為的に養育せねばならない事になる。それをアイヌは理解し、最高位の神の化身である幼獣を「神からの授かり、預かりもの」と解し、さらに次の理由を付し、翌春の豊猟返報と結びつけ最重要な飼育子熊の「送り儀礼」を行ったが、それは当然の考えと私は思う。

- ① 神から徳のあるアイヌと認められた証と考えた
- ② 飼育している間は、不幸が無い(飢饉、疫病、災害など「親熊神や 火之神などの加護」)
- ③ 次の猟期の豊猟が保証された(返報が保証された)
- ④ 付随的行事が成し得る。これも幼獣を得た功德である(親戚縁者知人縁者との交流、婚礼催事など他行事との合併での御利益「熊神の加護」)

<新生子を得る適期>

新生子を得る最適時季は4月中旬から5月上旬が最良である。これよりも早い時期に捕獲すると、新生子の発育が母乳以外の物を食べるまでにはなっておらず飼育に難儀する。(了)

